

国際教養大学長・中嶋嶺雄



Akita International University
国際教養大学



「東大を見習う必要はない もつと個性を出すべきだ」

国際教養大学（AIU）が2004年に秋田市に開学してから8年たった。この間、一貫してグローバル教育を推進してきた中嶋嶺雄学長（75）は、東京大学の秋入学構想をどう見ているのか。

東大の構想では、入学時期がクローズアップされています。問題はグローバル教育の本身です。このままではマイナス効果をもたらしかねないと思います。留学生をたくさん集められるような、あるいは送り出せるような、魅力的なグローバル大学に生まれ変わるかどうかが根本的な問題です。その中で私が気になっているのが「ギャップチーム」という言い方です。これは完全な和製英語です。イギリスのリーズ大学から来た本学の副学長に聞いても、何のことだか分からないと言っています。AIUは初めから「ギャップイヤー」と呼んでいます。本来にグローバルスタンダード（国際標準）でやるのなら、言葉の問題はきちんとしておかなくてはいけません。イギリスでは、たとえ6カ月でも「イヤー」と言っています。AIUは3月に合否を決め

て9月に入学というギャップイヤーをやっています。昨年からは11月に合否を決め、翌年9月に入学するまでの10カ月の計画も出してもらっています。この間をどう過ごすかも審査と単位認定の対象になります。

——入学時期以外で重要なことは何ですか。

まず、国際基準のGPA（評定平均値）での成績評価です。AIUは12段階で評価しています。従来型のA・B・C・Dとか優・良・可・不可では海外との学生交換も単位互換も非常にやりにくい。単位互換には共通に適用できるスキームがあります。普通の講義は1セメスター45時間で3単位。外国語は60時間で2単位ですが、言語異文化学習センター（LDIC）で自習した1単位を加えて3単位にしています。一方、ノルウェーに留学した人がノルウェ

なかじま・みねお 1936年、長野県生まれ。東京外大中国科を経て、東大大学院社会学研究科修了。社会学博士。東京外大教授、学長を歴任し、2004年から国際教養大学長。「スズキ・メソッド」のバイオリン奏者としても知られる。専門は国際社会学、現代中国政治

「語の単位を取得したら、それを「地域言語」として単位を認めています。」

また、授業科目はインターナショナル・コードでナンバリングしています。例えば社会学ならソシオロジーですから「SOC」のコードを付け、100番台は入門的なコース、400番台は留学から帰ってきた人が学ぶような高度な内容と、記号を割り振ります。これによつて留学生は来日前に時間割が組めるのです。そういうカリキュラムで授業を進めている大学は非常に少なく、公立大学ではAIUだけでしよう。

——日本の大学は「知の鎖国」状態にあると指摘されています。

「日本人が日本人に日本語で教える」という環境を、どこまで本格的に変えられるかが課題です。AIUは提携校が海外に131校あり、さらに増やしています。提携校とは授業料相互免除になっています。学生はAIUに払った授業料だけで、外国の大学で授業を受けられます。米国の州立大学の授業料は年間3万ドル(約250万円)以上と高額ですが、それをクリアできるような相互免除制度や奨学

金制度を設けています。

外国から来る留学生がどれだけ寮に入れるかも重要です。AIUは04年の開学時から9月入学を実施しており、新入生と留学生の全員が入寮できるように施設を整えています。

入学時期については一律に9月入学にせず、4月入学を残す必要もあると思います。全部9月入学にすると高校との不連続が生じます。全員がギャップイヤーを活用できるならいいですが、経済的な問題もあるでしょう。東大が旗を振るのはいいし、成功してほしいと思います。ただし、いろいろな選択肢があったほうがいい。AIUは4月入学と9月入学の比率は6対4ぐらいです。卒業式も入学式も年2回やります。秋学期に授業を取れない人は春学期に取ればいいという形です。聴講する学生が多い科目は秋冬両方やする場合もあります。それは大した問題ではありません。今後は、少しずつ9月入学を増やしていきたいと考えています。

——東大が秋入学に移行すれば、他大学も追随するでしょうか。

私が強調したいのは、そもそも

日本の大学の一番の問題は画一主義だということ。東大が何かをやれば、みんな同調するというのは、いかにも画一主義です。京都大や早稲田大がセメスター制やクォーター制を本格的に導入するとか、いろいろな動きが出てきているようです。多様性があると思っています。

そうした中で、企業や財界はかなり変わってきています。就職活動が12月からになったり、通年採用になったりしています。AIUは4年で卒業する学生は半分くらいです。留学から帰ってきて慌てて卒業するより、大学生活をきちんと締めくくった後に就職活動をしたのと考える学生が多くいます。AIUの場合、8月卒業でも100%、就職が決まっています。

日本の高等教育では、学生が大入学時点で学部・学科という小部屋に分けられてしまうのですが、本当は入学してから適性を見極めたほうが良いと思います。進学する大学を偏差値で決めてしまふとか、就職活動を一齐にやるといった画一主義もなくしていくことが必要です。そのためには、大学がいかにか個性を持つかが重要で

す。公立大だけで82もあります。それぞれの個性が見えてきません。同じように国立大も、総合大学はミニ東大化しています。もつと個性を出すべきです。日本には780もの大学があります。それこそ「ピンからキリまで」ありません。米国にもハーバード大のような伝統的なアイビーリーグの私立大から、カリフォルニアの一連の州立大のようなレベルの高い大学、入学するのが易しいコミュニケーション・カレッジと、いろいろなレベルの高等教育機関があります。しかし、コミュニケーション・カレッジでもない教育をしていて、学生はそれぞれ目的を持って勉強する。棲み分けができています。みんなが東大を見習う必要はないのです。

リベラルアーツ さらに重み増す

——企業は「即戦力」を求める傾向が強くなっています。

即戦力を企業は非常に求めていますし、おかげさまでAIUの学生の就職率はここ数年、100%です。しかし、大学のポリシーとしては就職のための大学ではな

く、あくまでも大学はきちんと勉強する場所だということを強調しています。終身雇用制が崩れていく中で、30代や40代で初めて自分の生き方を見つける人もいるでしょう。その間、大学院へ行ったり、いろいろなことをやっていいと思います。官僚も従来は東大法学部などを出てキャリアになるという一本道でしたが、外国ではMBA（経営学修士）や博士号を取った人が重用されています。グローバル化すれば、日本型のエリート官僚も国際的には通用しなくなるわけですから、大きく変わらざるを得ないでしょう。

最近、教養教育（リベラルアーツ）を見直そうという動きが出ています。学部段階では、まず教養教育をきちんとやり、同時に外国語のコミュニケーション能力を磨くことが重要です。英語だけでなく、中国語や韓国語などの外国語でコミュニケーションできるということは極めて大事です。学部段階での「国際教養教育」とは、それらをしっかりと身につけることに尽きます。今や本当の専門教育は大学院でやるようにシフトしているわけですから。

昨年亡くなった米・アップル創業者のステイブ・ジョブズが非常にいいことを言っています。「アップルが成功したのは、テクノロジーとリベラルアーツの交差点だったからだ」と。技術革新が進めば進むほど、高度の研究が重要になります。その基盤として学部段階でのリベラルアーツ、つまり広い教養を身につける必要があるのです。

——国際教養大に入学する学生の特徴は何ですか。

グローバル人材になろうとすることです。今春の受験生に対するアンケートによれば、A IUと京大、東大、阪大や東京外大を併願している人が多いようです。そして、地元の秋田県内、東北地方にとどまらず全国からA IUを目指して受験しています。就職活動でも、グローバル化を目指す企業の方がわざわざ秋田まで来てくれます。

アメリカの大学では、リベラルアーツの一環として音楽教育に力を入れているところがあります。日本では音楽系大学以外は授業でほとんどやりませんが、A IUではバイオリンやピアノなどを選択科目に入れています。学生たちは

非常に熱心で、指導を受けることでもかなり弾けるようになります。遠回りのようですが、こうした経験が生涯の中で大きな意味を持つのです。

また、A IUは100%英語授業が原則ですが、日本の文化を学ぶ「日本研究プログラム」は留学生用に日本語で開講しています。留学生のための日本語の科目もあります。「日本の文化とは何か」と外国人に聞かれた場合、うちの学生は新渡戸稲造の「武士道」を英語で勉強したり、本居宣長の有名な短歌を暗記させているので英語で答えられます。外国で仏教や神道について聞かれても、普通はなかなか答えられませんが、日本にはこういう文化があると英語で話せます。秋田の文化も英語で話せます。日本文化や日本文学を学ぶ際、常にグローバルなスタンダードを意識することが必要な時代になっています。

東大が投げかけた問いが日本の「知の開国」につながるよう願っていますし、A IUもそれに向けて教養教育をさらに充実させたいと思っています。

構成／本誌・奥村 隆